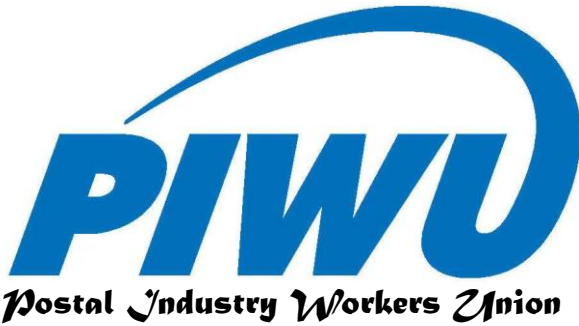


1005号

2025年 5月20日

日

郵政産業労働者ユニオン

←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！

メールはこちら→



2025年3月期の経営成績

(億円)

	日本郵政グループ	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	114,683	34,534	25,220	61,653
前年同期比	△5,137 △4.3%	+1,219 +3.7%	△1,296 △4.8%	△5,787 △8.6%
経常利益	8,145	25	5,845	1,702
前年同期比	+1,462 +21.9%	3 +14.6%	+884 +17.8%	+91 +5.7%
当期純損益	3,705	△42	4,143	1,234
前年同期比	+1,018 (+37.9%)	△114 (-)	+581 +16.3%	+364 +41.8%

非支配株主持分を含む四半期純利益は、5,994億円と前年同期比1,519億円増

2025年3月期 通期業績予想 (2024年11月修正後)

経常利益	8,100	△20	5,750	2,200
3Q進捗率	100.6%	(-)	101.6%	77.4%
当期純利益	3,600	△160	4,000	1,200
3Q進捗率	102.9%	(-)	103.5%	102.9%

想定内の郵政G決算

決算の概要

5月15日、2025年3月期の決算が発表された。日本郵便は赤字だが、この赤字は当初より設備投

資で織り込み済。日本郵便の通期業績予想では経常利益が△20億円だが、実際は25億円で、当期純利益も予想△160億円に対し、△42億円であった。会社別で見れば、日本郵

便以外は黒字を確保し、利益を積み上げている。

郵便・物流事業

郵便は7.5%減、ゆうメールが12.8%増。ゆうパックが2.1%増加し、ゆうパケットは16.1%増加。

営業収益が料金値上げの影響で前年同期比1,053億円増の20,808億円。

営業費用は748億円増の21,192億円。

営業損益は△383億円と赤字を計上したが、前期比△688億円を考慮すれば、改善傾向である。

郵便局窓口事業

保険・銀行手数料等の減少が続く、営業収益は前年同期比181億円減の10,087億円。

営業費用は、前年同期比71億円増の9,855億円。

営業利益は前年同期比253億円減の231億円。

国際物流事業

営業損益が前年同期比37億円増の134億円。フォワーディング事業の収入増加で営業収益が629億円増の5,117億円。

不動産事業

日本郵便や日本郵政不動産などの不動産における営業収益は前年同期比194億円減の814億円。

分譲住宅の収益が減少した。

営業利益は前年同期比80億円減の139億円。販売したら終わりの分譲収益は減少したが、賃貸収益が前年同期比135億円増の576億円と堅調さが伺える。

日本郵便

営業利益が前年同期比28億円減の35億円。

営業収益が前年同期比1,186億円増加したが、営業費用も1,214億円増加した。

当期純損益は△42億円と前年同期72億円から△114億円と悪化した。

点呼問題だけでなく、ヤマト運輸との協業でも問題が発生し、訴訟に発展するなど、課題が浮き彫りとなった。

ゆうちょ銀行

連結業務純益は、前年同期

今後の予定

- 6月7日(土) 13:00～
6月8日(日) 12:00まで
非正規全国交流集会 in 広島
広島アステールプラザ 中ホール
 - 6月10日(火) 17:00～
第10回呉支部執行委員会
支部事務所
- 次号は 6月 3日 予定

比3,254円増の1,299億円。
当期純利益は前年同期比581億円増の4,143億円。
資金利益が前年同期比2,409億円増の9,567億円。
貯金残高はほぼ横ばいの190.4兆円。
決算では、ゆうちょ銀行の利益が突出している。

かんぽ生命

基礎利益は前年同期比181億円増の2,421億円。
当期純利益は1,234億円で前年同期比364億円増加した。

保有契約件数1,881万件と前期比89万件減少に留めている。
また、新契約年換算保険料が1,750億円と前期比1,168億円から増加。